



発行日：平成 25 年 5 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 8 回海部会 WG を開催しました！

5 月 20 日に第 8 回海部会 WG が開催され、H25 年度の WG がスタートしました。

WG では、今年度の活動計画として、今年度メンバーで実施する活動の内容について話し合いました。



日時：平成 25 年 5 月 20 日（月）15:00～17:00  
場所：西尾市役所 5 階 53A・B・C 会議室  
参加者：20 名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

自己紹介を行い、メンバー同士の活動情報を共有しました



メンバーが行っている活動として、ヨットや前島を訪れるイベントを通して、子どもたちに海の良さを伝える活動や、水路のヘドロを再利用する活動などを行っているという情報が共有できました。



今年度の海部会 WG の活動計画について話し合いました



今年度の海部会の活動計画について、以下の活動方針、活動内容について話し合いました。詳細な活動内容や日程については、今後の話し合うことになりましたが、海部会の目的をメンバー全員で共有でき、有意義な WG となりました。

#### 【今年度海部会の海部会 WG の活動方針について】

- ごみ・流木調査の活動を行うとともに、土砂や海、干潟の現状についての調査を行う。

#### 【今年度の活動内容について】

- ① 昨年度から、企画を進めてきたごみ・流木調査は、とりあえずプレ調査を行ってみる。
- ② 山部会との連携も考慮しながら、矢作ダムなどの土砂の現状を調査する。
- ③ 人工干潟の事例として、西浦の人工干潟の状況を調査する。
- ④ 海の現状を知るために、船により海に出て、水質の状況を調査する。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

### ●今年度の海部会 WG の運営方針について

- 海にとっては、砂の問題、水質の問題が、上流からの影響を一番受け、問題である。できること（ゴミ問題）をやっていくというだけでは、本質を外しているのではないか。（鈴木（輝））
  - ▶ 我々でできることは限られているので、それが干潟調査やゴミ調査であるのは仕方ないことだと思う。しかし、本当に重要なことを忘れてはいけないので、こういう勉強会のような場も必要だ。（青木）
  - ▶ 海そのものの勉強会はやらなければいけない。海でまだ分かっていないこと、情報公開されていないことがある。（井上）

### ●今年度の活動内容について

#### ① 流木・ゴミ調査のプレ調査について

- 流木・ゴミ調査は、実施するというので、昨年度から動いている。（青木）
  - ▶ やるならやるということで、一度やってみた方が良い。（高橋）
- 愛知県も同じような調査をされているが、調査票のようなものは統一できるか。（高橋）
  - ▶ 県の方では、調査票はまだ検討中の段階である。（石上）
  - ▶ 県の調査様式を参考に頂いているが、今後調整が必要だ。（西原）
- 海部会の調査は、流木・ゴミの出所を明らかにする、ということが目的であった。（高橋）
- 上流に向けて、発信できるデータをとりたい、ということだった。（青木）



#### ② 矢作ダム等の土砂見学について

- 以前、山の方に見学に行ってはどうか、という話が出た。山の土砂を見に行くという活動は1回入れたい。（青木）
  - ▶ いいと思う。山部会も一緒に行ってはどうか。（松井）

#### ③ 西浦人工干潟の見学について

- いま伊勢湾再生の検討部会などでも指摘されているのは、水質悪化の原因が、陸から流れ込む窒素、リンなどではなく、干潟や浅場のような浄化機能が高い生物が棲んでいる場所が失われたということだ。（鈴木（輝））
  - ▶ 人工干潟で一番良くできているのが西浦の干潟である。手前に水路があり、人工干潟をつくるなら、そうしたものがいいと思う。一度見に行けばいいと思う。（高橋）

#### ④ 貧酸素水塊の見学について

- 冬場の海はきれいだが、夏場の海はどろどろしている。なぜか。（大矢）
  - ▶ きれい、汚いは、プランクトンがいるかどうかだ。冬の東三河と西三河では、吉田の川を境に全然透明度が違う。（石川）
- 船に乗って実際にこの目で見てみると、全然違う。（高橋）
  - ▶ 国土交通省の三河港湾事務所さんに船を出してもらい、観測機器を借りて、実際にどの程度酸素がないかを見てみればいい。できれば、山の人と一緒に。（井上）



### ● その他

- 以前出てもらっていた、国土交通省の三河港湾事務所や西尾市の人にも WG に出てもらってはどうか。（井上）

## ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

### よかったと思うこと

本音が言えたこと/自由な話し合いができた/海に係る関連な議論で、浄化についてよくわかった/見学会も決まり、動き出した感じがする

### よくなかったと思うこと

時間不足/港湾局や西尾市の出席がなかった

### 今後取り組んでいきたい活動など

本日提案した行事の実行/現状を知る視察/漁業者の人から直接話を聞く機会をつくること/それぞれの働きを認識する

## 今後のスケジュール（予定）

### 次回 海部会第9回 WG を 6月22日（土）に開催します

今年度の活動方針（詳細）やゴミ・流木調査のプレ調査について話し合いを行う予定です。





発行日：平成 25 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 9 回海部会 WG を開催しました！

6 月 22 日に第 9 回海部会 WG が開催されました。  
WG では、海部会 WG の今年度の年間活動計画と、7 月に開催される第 10 回海部会 WG 「ごみ・流木調査プレ調査」の実施方針について話し合いました。



日時：平成 25 年 6 月 22 日（土）13:00～15:00  
場所：西尾市文化会館 2 階 202 号会議室  
参加者：14 名（事務局含む）

### ◆主な会議内容

#### 1：海部会 WG の年間活動計画について話し合いました



海部会 WG の今年度の年間活動計画について、内容、スケジュールなどを話し合いました。活動計画をメンバーで共有でき、干潟観察会や水質観察会については、具体的な提案も出ました。

今年度の活動内容として、以下の計画が共有されました。

##### 【海部会 WG の年間活動計画】

- 7 月 ごみ・流木調査 プレ調査
- 8 月 干潟観察会
- 9 月 三河湾水質観察会  
ごみ・流木調査 本調査
- 10 月 土砂見学会（矢作ダム）
- 11 月 土砂見学会（下流河川等）
- 12 月 とりまとめ



#### 2：次回 WG ごみ・流木調査プレ調査の実施方針について話し合いました



7 月に予定している第 10 回海部会 WG 「ごみ・流木調査プレ調査」の実施方針について話し合いました。プレ調査として、佐久島の白浜海岸を調査場所に活動を行うことが決まりました。

##### 【主な内容】

- この手法が海岸だけでなく、河川でも有効かどうか、検討した方が良い。
- 調査だけでなく、ごみを拾って、汗を流してはどうか。漁民の気持ち、海の住民の気持ちが分かる。
- 海部会だけでなく、他の部会にも声をかけた方がいいと思う。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





## ◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

### 1：海部会 WG の年間活動計画について

#### ① 年間活動計画全体について

- 月 1 回活動があり、9 月は出水時にごみ・流木調査もあって 2 回活動があるので、けっこう忙しいスケジュールとなるが、どうか。（青木）
  - ▶ 矢作川流域圏において、矢作ダム、干潟、貧酸素水塊は、本質的な問題ではあるので、活動内容としては、全て重要なものだと思う。（石田）



#### ② 干潟観察会（8 月）について

- 8 月は潮が一番引く時期でも 30cm である。8 月 5、6、7 日が大潮、20、21 日も潮が引くのでそのあたりで見学会を設定してはどうか。（石田）
- 見学会は何を目的にするのかははっきりさせた方がよい。水生生物の見学なのか、砂の良し悪しなのか。（石川）
  - ▶ 造成時の目的と、その成果が出ている所、出ていない所の違いを知りたい。成功点と課題が分かるとよい。（井上）
- 人工干潟と天然干潟を比べて見学してはどうか。（石田）
  - ▶ 天然干潟は、トンボロでできた東幡豆町のトンボロ干潟がある。愛知県に 1 つしかない天然干潟である。（石川）
- 水産試験場の専門部署に解説をお願いしてもらってはどうか。（石田）

#### ③ 三河湾水質観察会（9 月）について

- 呼びかけは、懇談会全体に行うのか。そうすると、港湾事務所の船の定員 20 人を超える可能性がある。（石田）
  - ▶ 8 月はイベントが多いので、調整が必要である。船の乗員数はだいたい 20 人くらいである。（澤田）
- 山のメンバーに対して説明できるくらい勉強してから行った方がいい。（石川）
  - ▶ ずっとその辺で調査しているので、説明できることはある。（青木）
- 貧酸素水塊は、9 月に台風が来るとなくなってしまうので、あまり遅くない時期の方がいいと思う。（石田）

### 2：次回 WG ごみ・流木調査プレ調査の実施方針について

- 海で実施した 10m 四方のコドラート（正方形や長方形で区切った調査区のこと）の手法が川でも有効かどうか、検討した方がよい。河川でも一律に 10m 四方の面積が確保できるか疑問。（国立）
  - ▶ 河川は、人由来のごみが少ないため、今回は佐久島を考えている。（西原）
- 調査したあとは、どうするのか。調査だけでなく、ごみを拾って、汗を流してはどうか。漁民の気持ち、海の住民の気持ちが分かる。（鈴木）
  - ▶ ごみの処理については、西尾市のごみ減量推進課に聞いてみる。（国立）
- 海部会だけでなく、他の部会にも声をかけた方がいいと思う。（青木）



#### ● その他

- 矢作ダムの堆積砂を使用した干潟・浅場造成事業があるが、その効果検証をしたい。素人ではできないので、データ出していただきたい。（天野）
  - ▶ 水産試験場、港湾事務所に話をすれば、教えてくれると思う。（石田）
- 干潟・浅場造成事業のアサリへの影響や、アサリによって、窒素、リンのバランスがどう保たれているのか、そういうことが、矢作湾のバランスだと思う。（天野）



## ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

### よかったと思うこと

議論に集中できた/メンバーからの正確な情報が提供されたこと

### 今後取り組んでいきたい活動など

海に出ること



## 今後のスケジュール（予定）

### 次回 海部会第 10 回 WG を 7 月 20 日（土）に開催します

佐久島にて、ゴミ・流木調査のプレ調査を実施し、調査後に調査方法や調査票について話し合いを行う予定です。





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 10 回海部会 WG を開催しました！

7 月 20 日に第 10 回海部会 WG を開催し、佐久島白浜海岸での  
ごみ・流木調査プレ調査を実施しました。

プレ調査では、ごみ・流木調査本調査に向けて、調査票や調査方法  
の確認を行い、その後、改善事項について、話し合いました。



日時：H25 年 7 月 20 日(土) 10:30~14:30

場所：佐久島白浜海岸／佐久島クラインガルテン管理棟

参加者：13 名（事務局含む）

### ◆主な活動・会議内容

#### 1：佐久島白浜海岸にて、ごみ・流木調査プレ調査を行いました



佐久島白浜海岸にて、ごみ・流木調査プレ調査を行いました。流木、人由来ごみ、生物影響ごみの 3 種類の調査について、メンバーで話し合いながら実施しました。



調査前の砂浜



10m 四方範囲を調査します



人由来のごみを集めます



生物由来ごみも調べました



調査後に清掃も行いました

※調査結果は裏面に記載しています。

#### 2：佐久島クラインガルテンにて、ふりかえりを行いました



プレ調査後、調査票や調査方法についてのふりかえりを行いました。本調査に向けて、調査票や調査方法の改善点に関する意見が話し合われました。また、佐久島観光協会会長さんにお越しいただき、佐久島のごみの現状についてのお話をうかがいました。

##### 【主な内容】

- 灌木・流木の区別はつかないので、「山から発生した流木」、「川から発生した流木」、「川から発生した流木のうちヨシ」の3つに分類した方がいい。
- シート上では風に飛ばされるので、バケツ容器などに分別しながら行った方がいい。
- 生物影響ごみについては、細かい個数のカウントまでは不要ではないか。人由来ごみの調査とまとめて一緒に行ってはどうか。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





## ◆ プレ調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの 3%、川発生のもの 3%、川発生のみ 94%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分で、内訳は以下ようになった。

	No.1	No.2	No.3
写真			
人由来ごみ (種類を調査)	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター 等 【漁業系ごみ】漁業系 【事業系ごみ】木材等 【その他】硬質プラスチック片、発泡スチロール片、シート、ガラスや陶器片 等	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、苗木ポット、おもちゃ、ライター 等 【漁業系ごみ】漁業系 【その他】硬質プラスチック片、シート 等	【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、生活雑貨、キャップ、袋類、苗木ポット 等 【漁業系ごみ】漁業系 【事業系ごみ】木材等 【その他】硬質プラスチック片、シート、スプレー缶、クッション 等
生物影響ごみ (種類・数を調査)	プラスチック破片(23)、ペットボトルのキャップ(13)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(10)、ガラス破片(6)、食品の包装・容器(6)、空き缶(3)、使い捨てライター(2)、ロープ・ひも状のゴミ(2)、発泡スチロール(1)、ペットボトル(1)、ピン類(1)、ガラス・陶器(1)、プラスチック容器(1)、車両部品(1) 等	プラスチック破片(35)、ペットボトルのキャップ(18)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(14)、ペットボトル(6)、プラスチック容器(6)、ロープ・ひも状のゴミ(4)、タバコの吸い殻・フィルター(3)、漁網(1) 等	プラスチック破片(80)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(20)、ペットボトルのキャップ(7)、ロープ・ひも状のゴミ(6)、木製品(3)、タバコの吸い殻・フィルター(1)、ペットボトル(1)、スプレー缶(1) 等

## ◆ 話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ① 調査方法について

- 調査時間は、夏は 2 時間くらいが適切だと思う。(松井)
- 調査人数は、今日の人数は 1ヶ所でやる人数としては多い。4、5 人が適切だと思う。(青木)
  - ▶ (一同了承)
- 灌木・流木の区別はつかないので、「山から発生した流木」、「川から発生した流木」、「川から発生した流木のうちヨシ」の 3 つに分類した方がいい。(青木)
- 藤前干潟の調査では、分別するのに、バケツを持っていった。(溝口)
  - ▶ 容器の方が良い。風が吹くと飛ばされてしまう。量は換算すればいい。(青木)

### ② 調査範囲について

- 調査範囲 10m を何処にするのかという問題がある。川のゴミは、流れの淀みのところに溜まって均一でない。1m 真四角にして代表的なところで割り切れればいいのかと思う。(溝口)
  - ▶ 川の場合、10m を一つ取るよりは、1m や 2m を複数取った方がいいと思った。(鈴木)
  - ▶ 今日のような砂浜の場合、波際にずっと続くので、全体の一部分を取って、あとはメーター数をかけて換算すればいい。(後藤)

### ③ 生物影響調査について

- 生物影響ごみ調査の目的を何にするかが重要である。人由来ごみ調査を行えば、最終的にゴミの発生源を把握できる。それを目的にするのか、量まで把握するかという問題がある。(土屋)
- 人由来ごみと生物由来ごみの調査を合体させてはどうか。例えば、生活系、漁業系、事業系で、ある程度の量の把握で良いのではないかと感じる。(青木)



## 今後のスケジュール (予定)

### 次回 海部会第 11 回 WG を 8 月 5 日 (月) に開催します

東幡豆町トンボロ干潟、西浦人工干潟にて、生物調査、見学を行い、海の将来像について話し合う予定です。





発行日：平成 25 年 8 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 4 回海の地域部会、第 11 回海部会WGを開催しました！

8 月 5 日に第 4 回海の地域部会、第 11 回海部会 WG を開催しました。  
WG では、東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて、生き物調査を行い、その後、調査結果について、ふりかえりを行いました。



日時：H25 年 8 月 5 日(月) 10:00~14:45  
活動場所：東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟  
会議場所：西尾市役所幡豆支所 2F 中会議室  
参加者：17 名（事務局含む）

### ◆主な活動・会議内容

#### 1：東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて、生き物調査を行いました。



東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟にて生き物調査を行い、干潟の生物、生息環境の違いを観察しました。



東幡豆町天然干潟



西浦地区人工干潟



25×25cm の範囲を調べます



生物名と個数を調べます



マテガイもたくさんいました！

※調査結果は裏面に記載しています。

#### 2：西尾市役所幡豆支所にて、ふりかえりを行いました



調査後、見つかった生物の種類や干潟による生物、環境の違いについて、ふりかえりを行いました。また、ごみ・流木調査の本調査に向けて、調査場所や連絡体制についての話し合いを行いました。

##### 【主な内容】

- 調査の結果、東幡豆町天然干潟で9種、西浦地区人工干潟で5種の生物が見つかった。
- ごみ・流木調査の本調査は、出水後、事務局と西尾市でごみ・流木の状況を把握し、メーリングリストにて、調査場所・時間を周知することとなった。
- 人工干潟は、砂の粒径が均一で生息する生物も限られるため、上流のダムの上流の砂を持ってきて、人工干潟の改良実験を行ってはどうか、という提案があった。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



#### 3：第 4 回海の地域部会にて、役員改選を行いました



第 4 回海の地域部会にて、座長に 大阪大学大学院 青木伸一教授、副座長に 名城大学大学院 鈴木輝明特任教授 が再選されました。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100


\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。





## ◆干潟生き物調査の結果

●東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟 25×25cm 当たりの坪刈り（深さ 20cm）の調査結果は、東幡豆町天然干潟で 9 種、西浦地区人工干潟で 5 種の生物が見つかった。また、東幡豆町天然干潟のアサリの平均殻長は、31mm であった。

写真		種類	NO.1	NO.2	NO.3	NO.4	合計（個/m <sup>2</sup> ）
東幡豆町 天然干潟		アサリ	22	8	9	6	96~352
		シオフキガイ	1	-	1	2	16~32
		アラムシロガイ	4	1	10	-	16~160
		ウミナ	1	-	-	-	16
		マテガイ	1	-	-	2	16~32
		シマハマツボ	-	-	2	1	16~32
		マメコブシガニ	1	-	-	-	16
		ヤドカリ	1	1	3	-	16~48
		ゴカイ類	1	-	-	-	16
		アサリ稚貝	-	-	-	1	16
		シオフキガイ稚貝	7	-	-	5	80~112
							9種類
西浦地区 人工干潟		バカガイ	2	1	7	2	16~112
		カガミガイ	-	3	3	-	48
		マテガイ	-	1	-	-	16
		シズクガイ	4	-	-	-	64
		カンザシゴカイ	1	-	-	-	16
		バカガイ稚貝	1	-	-	-	16
		ガザミ脱皮殻	-	-	1	-	16
							5種類

## ◆話し合いでの主な意見（●意見 ▶回答）

### ① 干潟生き物調査のふりかえり

- 西浦地区の人工干潟については、4月の調査で 47 種確認できた。現在は、造成中ということもあり、かなり種類が確認でき、今日はそのうちの 5 種が確認できた。（蒲原）
- 天然干潟と人工干潟の違いとして、天然干潟には巻貝がたくさんいた。人工干潟は、粒径も均一で急勾配のため砂が溜まりにくいのが、天然干潟は、泥や有機物がたくさん溜まっていた。（鈴木）
- 流域圏懇談会で、上流部のレキや砂などを人工干潟に持ってきてはどうか。（高橋）
- 大規模でなくてもダンプ 1 杯分の砂で実験的にやってみてはどうか。（青木）
  - ▶ 実際にレキを入れた成功事例がある。国や県の補助事業で連携してできると思う。（鈴木）

### ② ごみ・流木調査本調査に向けて

- 調査場所として、古川の河口はよく溜まり、船も通るので良いところではないか。また、矢作川の河口地点もいいと思うが、すぐ流れていってしまう。（高橋）
  - ▶ 船が通る場所は、漁師さんがすぐ片づけてしまう。調査しやすい場所が良いと思う。（河原）
- 出水後の西尾市のパトロールの際に、調査場所に丁度いい場所を見てもらってはどうか。（鈴木）
  - ▶ 事務所も出張所があるので、出水後は巡視を行い、調査場所を選定する。調査場所と時間はメーリングリストでメンバーに周知する。（西原）



## ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

### よかったと思うこと

2ヶ所の干潟の生物多様性の差が実感できた。/自然と人工の干潟の差がよく分かった。

### 今後取り組んでいきたい活動など

人工干潟の改良試験の idea が出たが、実現することが流域懇談会の役割だと考える。/山砂の人工干潟使用。

### よくなかったと思うこと

いつもながら参加者数が・・・？

## 今後のスケジュール（予定）

### 次回 海部会第 12 回 WG を 9 月 9 日（月）に開催します

船で渥美半島先端付近まで出かけ、その途中の貧酸素区域や深掘跡など 3ヶ所で水質調査を行います。







発行日：平成 25 年 9 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 12 回海部会WGを開催しました！

9月9日に第12回海部会WGを開催しました。WGでは、三河湾内の4地点で水質調査（水温、塩分、DO（溶存酸素）、クロロフィル）、底質調査を行い、その後、調査結果について、ふりかえりを行いました。



日時：H25年9月9日(月) 9:10~15:40

活動場所：三河湾内

会議場所：愛知県水産試験場 2F 研修室

参加者：21名（事務局含む）

※調査には、国土交通省三河港湾事務所のご協力を得ました。

### ◆主な活動・会議内容

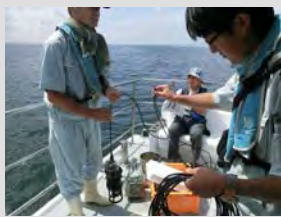
#### 1：三河湾内の4地点で、水質調査を行いました。



三河湾内の4地点で、水質調査（水温、塩分、溶存酸素、クロロフィル）、底質調査を行いました。前週に、湾内の貧酸素水塊は崩れてしまったそうですが、湾奥部では、貧酸素の状況を観察することができました。



船に乗り込んで出発です



多項目水質計を用います



2m深毎に計測します



底質も採取します



手ざわりやにおいをチェック

※調査結果は裏面に記載しています。

#### 2：愛知県水産試験場にて、ふりかえりを行いました



調査後、三河湾内の4地点の水質調査結果、貧酸素水塊の様子について、ふりかえりを行いました。また、ごみ・流木調査の本調査に向けての最終確認、流域圏一体化の取り組みについての意思確認を行いました。

##### 【主な内容】

- 調査の結果、湾奥部の調査地点の底層では貧酸素状態が確認され、底質も硫化物が多い状態であった。湾の外側は、酸素環境も良く、底質の状態も良好であることが、メンバーで共有された。
- ごみ・流木調査の本調査は、出水後、事務局でごみ・流木の状況を把握し、メーリングリストにて、調査場所・時間を周知することを確認した。
- 流域圏一体化に向けて、いい川づくりワークショップに参加し、流域圏の取り組みを発表することに、海部会メンバーの同意を確認した。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

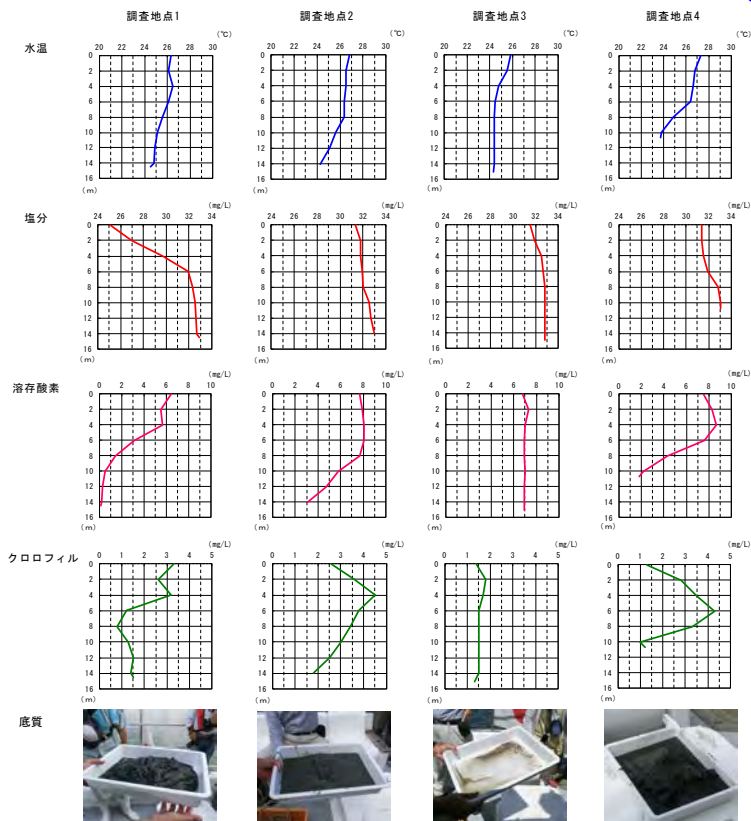
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆水質調査の結果

- 湾奥部の調査地点①、調査地点④では、底層で貧酸素状態（溶存酸素 2.5mg/L 以下）が確認された。地点①では、底質も硫化物が多いヘドロ状であった。
- 湾の外側の調査地点では、酸素状態も良く、底質の状態も良好であった。地点②では、ゴカイも確認された。



## ◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

### ① 三河湾水質調査のふりかえり

- 今日の観測では、貧酸素水塊が解消されていたが、湾奥の最下層の溶存酸素の値はけっこう低かった。5m以下の浅場の生き物がたくさんいる場所に、貧酸素水塊の影響が出ないように対策を考えなければいけない。(鈴木)
- 硫化水素を発生する底質の改善も検討しなければならない。湾奥は有機物が堆積してヘドロ状になっていたが、酸素が十分にあれば、ヘドロは硫化物を発生しない。(石田)
- 湾の西部と東部の水深が異なること、東部の港の水深が低いことが貧酸素水塊の原因のひとつとなっている。(石川)
  - ▶ 防災の視点からも湾奥に重要な港があり、大きな船を集めることには問題がある。発想の転換が必要なのではないか。重要な港と重要な浅場が隣接する場所として、何か良い知恵が出れば良いと思う。(青木)

### ② ごみ・流木調査本調査に向けて

- 9月中に大きな出水があった場合、事務局で巡視を行い、調査場所を選定する。調査場所と時間はメーリングリストでメンバーに周知する。(西原)
  - ▶ まずは、集まれるメンバーだけでも集まって、実施してみるしかない。(青木)

### ③ 流域圏一体化に向けて

- 市民会議では、いい川づくりワークショップに、各部会から代表者を出す話だった。(高橋)
  - ▶ 取り組みについては、どこかで発表していくべきだと思う。(青木)



ふりかえり 会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



### よかったと思うこと

見て、匂いを嗅いだことで実感ができた。深刻な状況が分かった。/場所による水質の状況が分かった。/実際に海を見てもらってよかった。

### よくなかったと思うこと

意外に状況がよく、危機的状況が伝わりにくかった。/過去のデータと比較したかった。/調査を自分で体験できるプログラムだとよかった。

### 今後取り組んでいきたい活動など

山、川部会との交流。/行政サイトの個人意見が出る場づくり。/部会の現場を持って長く取り組むことができれば、面白いのでは。

## 今後のスケジュール (予定)



次回 海部会 WG を 10月7日(月) に開催します。矢作川河口干潟において、干潟生き物調査を実施します。







発行日：平成 25 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 13 回海部会 WG を開催しました！

9 月 27 日に第 13 回海部会 WG を開催し、矢作川左岸 14.5k 付近でのごみ・流木調査本調査を実施しました。

9 月中旬の台風に伴う出水により、河川敷に堆積したごみ・流木の調査を行い、その後、調査結果について話し合いました。



日時：H25 年 9 月 27 日(金) 10:20～11:30

場所：矢作川左岸 14.5k 付近

参加者：9 名（事務局含む）

### ◆主な活動・会議内容

#### 1：矢作川左岸 14.5k 付近にて、ごみ・流木調査本調査を行いました



矢作川左岸 14.5k 付近にて、ごみ・流木調査本調査を行いました。流木、人由来ごみの 2 種類の調査について、メンバーで話し合いながら実施しました。



大量に堆積したごみ・流木 10m 四方範囲を調査します



流木の種類をチェック



人由来ごみを集めます



種別に分類

※調査結果は裏面に記載しています。

#### 2：その場でふりかえりを行いました



本調査後、その場でふりかえりを行いました。よかったこと、悪かったこと、ごみ・流木調査の改善提案、佐久島での調査（第 10 回 WG）との違いについて意見交換をしました。

##### 【主な内容】

- 出水によって発生するごみを、実際に確認できてよかった。
- 海部会のメンバーでは、流木の樹種が判断できなかったため、山部会の人や木の専門家がいるとよかった。
- 堆積物にはヨシが非常に多かったが、ヨシは流れ着いた後も生物の棲み家となるなど、生態系の中では重要な役割を担っているため、ごみとして扱うのかを考えていく必要がある。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。







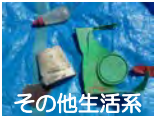



## ◆本調査結果

- 10m 四方内の流木の割合は、山発生のもの 4%、川発生のもの 6%、川発生ヨシ 90%であった。
- 10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分（ランク 4~5）で、内訳は以下ようになった。

<流木の状況>

A. 漂着物の状況 (時間経過)	1	樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの	有
	2	樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの	有(1週間程度)
B. 人工林・自然林、 その他の別	1	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林	有(スギ)
	2	まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木	有(ヒノキ)
	3	切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの	無
	4	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等	有
	5	その他( )	

<人由来のごみの状況>

写真	       
種類	<p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器・トレー、紙パック、ふた、キャップ、袋類（農業用以外）、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター、その他生活系</p> <p>【事業系ごみ】木材等、苗木ポット、農薬、肥料袋</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、ガラスや陶器片、発泡スチロール片、金属片、シート、袋の破片</p> <p>【上記以外】タイヤ、スプレー缶、固形燃料</p>
コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルの次に発砲スチロール類が多い。</li> <li>・人由来のごみは、佐久島でのプレ調査時と概ね共通していた。</li> <li>・風の影響など、捨てようと思って捨てたごみ以外のものが、ごみになっている可能性がある。ごみの発生源、発生要因を考えることが必要である。</li> </ul>

## ◆話し合いでの主な意見

### ① よかったこと

- ・ 出水によってどのようなごみ出るのか実感できた。
- ・ 実際のごみを見ることができてよかった。

### ② 悪かったこと

- ・ 流木の樹種の判別には、樹木の専門家（山部会の人）がいればよかった。

### ③ ごみ・流木調査の改善提案など

- ・ 樹種を掲載している参考資料は、流木と成木、両方の写真が必要である。
- ・ 今回のごみはヨシが非常に多かったが、ヨシはごみとなった後も生き物の住処になっており、生態系の中では重要な役割を担っている。そのため、ヨシを一概にごみと扱っていいものかどうかを考えていく必要がある。
- ・ 自然由来のごみと人由来のごみでは、ごみとしての寿命が違う。自然由来のごみは半年もすれば分解等によりなくなってしまうが、人由来のごみはいつまでも無くならない。
- ・ 流木は、海では漁業の邪魔になりごみになるが、川では生き物の棲み家である。ごみの扱いについては、どこで不都合が生じているのかを考えて、判断すべき。
- ・ 昔は、のりの養殖を行っていたため、ヨシなどの流出も問題になっていた。現在では、のり養殖も減っているため、実情は違うかもしれない。
- ・ 今後、生活系のごみを減量しなければならないことを感じた。
- ・ ペットボトルなどの人由来のごみの発生要因を明らかにする必要がある。捨てようと思って捨てたごみもあるが、そうでないものもあるのではないかと。そうであれば、対策方法も変わってくる。

### ④ 佐久島での調査（第 10 回 WG）との違い

- ・ 出水によってどのようなごみ出るのか実感できた。
- ・ 自然由来のごみとして、佐久島はアマモが多かったが、矢作川ではヨシが多かった。

## 今後のスケジュール（予定）

次回 海部会第 14 回 WG を 10 月 7 日（月）に開催します

矢作川左岸 0.6k 付近の河口干潟にて、干潟生物調査を行い、海の将来像について話し合う予定です。







発行日：平成 25 年 10 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 14 回海部会WGを開催しました！

10月7日に第14回海部会WGを開催しました。矢作川河口干潟（矢作川 0.6k 付近左岸）にて、干潟生き物調査を行い、その後、調査結果について、ふりかえりを行いました。



日時：H25年10月7日(月) 11:25~13:00  
活動場所：矢作川河口干潟（矢作川 0.6k 付近左岸）  
参加者：14名（事務局含む）

### ◆主な活動・会議内容

#### 1：矢作川左岸 0.6k 付近の河口干潟にて、生き物調査を行いました。



矢作川左岸 0.6k 付近の河口干潟にて生き物調査を行い、生物の生息状況を調査しました。



左岸 0.6k 付近河口干潟



0.4k と 0.7k で調査します



25×25cm の範囲を調べます



生物名と個数を調べます



見つかった生き物

※調査結果は裏面に記載しています。

#### 2：その場でふりかえりを行いました



調査後、見つかった生物の種類や生息状況について、その場でふりかえりを行いました。また、東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟での調査（第 11 回 WG）との違いについての話し合いを行いました。

##### 【主な内容】

- 砂を入れて干潟を造成した場所よりも、洲が川下に動いているように感じた。
- 海の干潟と川の干潟は違うので、一概に比較できないが、砂の状況はすごくよかった。
- 生き物はいるが、繁殖はしていない。ヨシ原があると、エサの供給が安定する。

※話し合い中のご意見は裏面に記載しています。



#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤



TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆干潟生き物調査の結果

●東幡豆町天然干潟、西浦地区人工干潟 25×25cm 当たりの坪刈り（深さ 20cm）の調査結果は、河口 0.7k 地点（H22 年施工）で 7 種、河口 0.4k 地点（H24 年施工）で 7 種の生物が見つかった。また、個体数は、河口 0.7k 地点（H22 年施工）の方が多く存在した。

	写真	種類	NO.1	NO.2	NO.3	合計 (個/m <sup>2</sup> )
河口 0.7k 地点 (H22 年 施工)		ソトオリガイ	5			80
		ウミニナ	1			16
		ユウシオガイ	3			48
		シジミ	1	5		16~80
		ゴカイ類	1	1	2	16~32
		チゴガニ	32	2	17	32~512
		不明		1		16
河口 0.4k 地点 (H24 年 施工)		アサリ	1			16
		シジミ	5	5		80
		ロロガイ	4			64
		ホトトギズガイ	4	2		32~64
		ウミニナ	2			32
		チゴガイ	1			16
		ハマグリ		1		16

## ◆話し合いでの主な意見

### ① よかったと思うこと

- 砂はすごくいい砂である。稚貝にいい砂だと思う。海にもっていきたくらい。（鈴木）



### ② 干潟生き物調査での気づき

- 干潟の造成には、もともと洲の砂を使用しているが、当初砂を入れたところよりも川下にずれている。
- ヨシ原があるとエサの供給が安定する。生物が育つためには必要である。
- 生物の数はそこそこいるが、種類が少なかった。もっとゴカイがいるかと思ったが、少なかった。
- 鳥も昔に比べるとずいぶん減った。シロチドリ、ソリハシシンがチゴガニを捕りに来ていた。
- 1960 年代までは、ここでハマグリが何百トンと捕れた。今はパラパラみられるが、繁殖はしていないようだ。



### ③ よくなかったと思うこと

- 干潟は、でこぼこで水たまりができないと生物の生息環境が確保されない。



### ④ 東幡豆トンボロ干潟、西浦人工干潟との違いは？

- 海の干潟と川の干潟は、根本的に違う。海の干潟はすべて泥であるが、川の干潟は表面は泥で、下は砂である。
- トンボロ干潟が 1 番よかったが、ここも雰囲気は似ている。

## 今後のスケジュール（予定）



### 次回 海部会第 15 回 WG を 11 月 27 日（水）に開催します

矢作ダムまで出かけ、矢作川上流の流入土砂の状況、処理の状況、土砂受入地の状況を皆で見学します。

